

国際エネルギー・フォーラム（ＩＥＦ）第１５回閣僚級会合

岸田外務大臣メッセージ

（平成２８年９月２８日）

アブドルアジーズ・ビン・サルマン・アルサ우드議長，各国代表団の皆様，

今次閣僚級会合の開催に向けたブーテルファ・アルジェリア・エネルギー大臣をはじめとするアルジェリア民主人民共和国政府関係者のご尽力に心から敬意を表します。また，スン新ＩＥＦ事務局長の就任に祝意申し上げるとともに，ＩＥＦ事務局の皆様並びに共催国のアルゼンチン及びカザフスタンの皆様を始め，関係者の皆様の御尽力にも心から感謝申し上げます。

本年は，世界的なエネルギー対話の場である第１回ＩＥＦ閣僚級会合から２５年を記念する年です。過去四半世紀においてエネルギーを巡る状況は大きく変化を遂げています。かかる中，エネルギーの安定供給と市場の透明性の確保の観点から，エネルギー生産国と消費国との対話の重要性はかつてないほど高まっており，ＩＥＦへの期待は今後益々大きくなるでしょう。

（グローバル・エネルギー・ガバナンス／アーキテクチャー）

今，世界のエネルギーに関するフォーラムや国際機関では，様々な形で世界的なエネルギー・ガバナンス又はアーキテクチャーが議論されています。その背景として，エネルギー需要を増している新興国の存在，気候変動問題や国境を越えるガス・パイプラインや電力グリッド等の広域エネルギー協力，シェール革命やＬＮＧ市場等のエネルギー市場のグローバル化等を受け，もはやいかなる国も，エネルギー問題において国際協調を抜きに対応することはできない状況にあります。

しかし，現在，世界を統合する国際的なエネルギー協力のフレームワークは存在せず，エネルギーに関する様々なフォーラム・機関が並立している状況にあります。かかる中，ＩＥＦは，世界最大級のハイレベルの産消対話の場であり，また，国際エネルギー機関（ＩＥＡ）やＯＰＥＣとの連携を進める

等，グローバル・エネルギー・アーキテクチャーの強化に重要な役割を果たしており，今後もその役割を更に発揮する余地が大いにあります。

世界の経済成長を支えるエネルギーの安定的な供給を，気候変動問題にも対応しつつ実現するためには，様々な知見や意見の共有がかつてないほど重要になっています。

（我が国としての貢献）

我が国は，世界有数のエネルギー消費国として，ＩＥＦ及びＩＥＡの理事国を務める他，昨年国際再生可能エネルギー機関（ＩＲＥＮＡ）の議長に続き，本年はＧ７議長国として伊勢志摩サミットにてエネルギー分野を含む様々な貢献を議論しました。また，Ｇ７北九州エネルギー大臣会合で採択された「グローバル成長を支えるエネルギー安全保障のための北九州イニシアティブ」では，新興国が世界のエネルギー安全保障の強化に関与するよう，グローバル・エネルギー・アーキテクチャーについても言及されています。更に，本年１１月にはエネルギー憲章会議の議長として，エネルギー分野における国際協力の推進に積極的な役割を果たしています。

世界の持続可能なエネルギーの未来のためには，グローバル・エネルギー・アーキテクチャーの議論を深めることが重要です。我が国は，本年１１月下旬に東京で開催するＬＮＧ産消対話，エネルギー憲章会議のタイミングに合わせ，ＩＥＡ，ＩＥＦ及びエネルギー憲章事務局の３機関のトップも参加するサイドイベントとして「グローバル・エネルギー・アーキテクチャーとアジアへの影響」と題したセミナーを開催します。ここでは，今次ＩＥＦ閣僚級会合を含む本年のグローバル・エネルギー・アーキテクチャーの構築に関する議論を総括し，エネルギーに関する対話の活性化に我が国として一層貢献していく所存です。

（結び）

各国がエネルギー政策や気候変動への取組を実施する上で，ＩＥＦの果たす

役割は極めて重要であり、日本は、ＩＥＦとの協力関係を一層発展するべく努めて参ります。

（了）